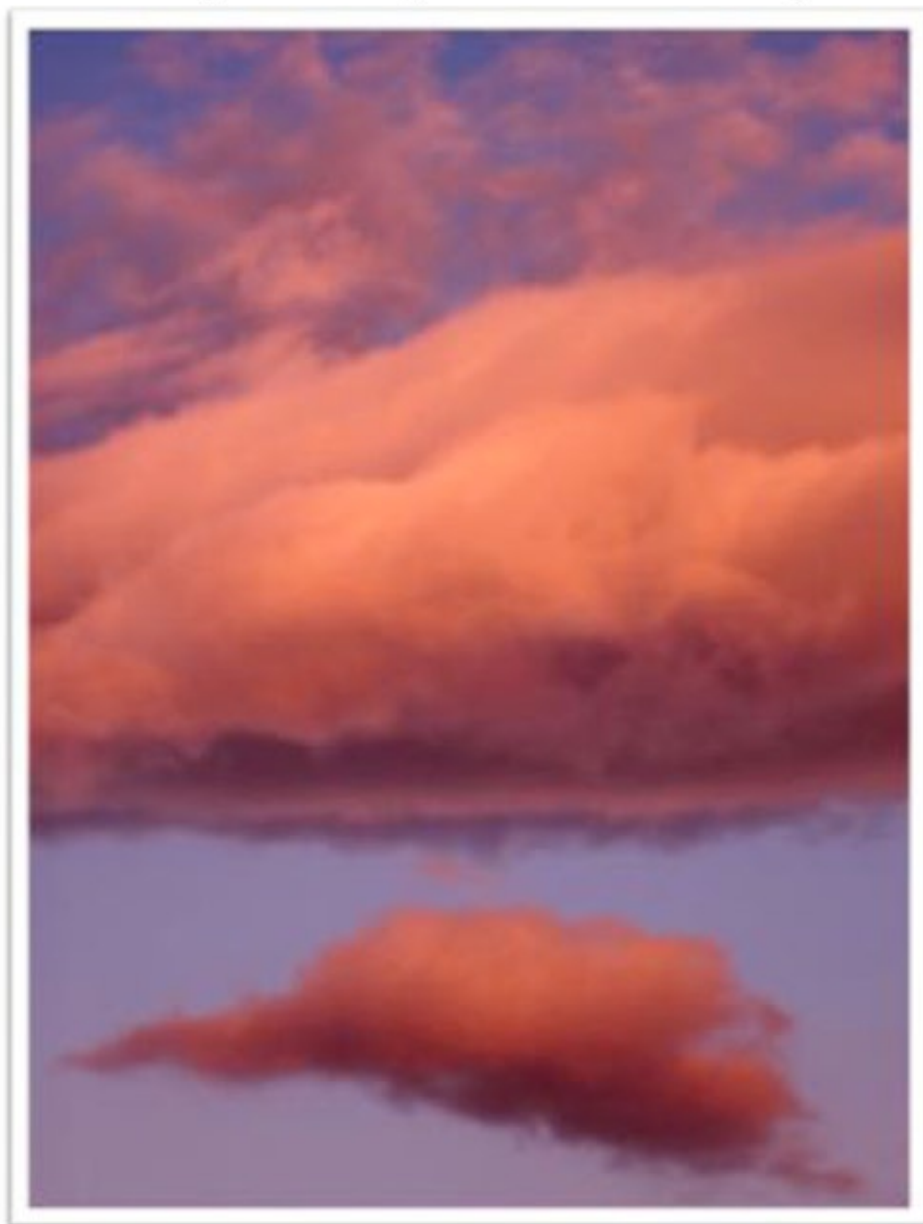


FUKUSHIMA SKY

空はいのちをつないでいる
Change Hearts, the World Changes



千葉節子フォトアート展

SETSUKO CHIBA PHOTO ART EXHIBITION

2015.3.11～6.7

原発災害情報センター
Nuclear Disaster Information Center

【Concept & Artist Message】

大空の心をみなぎらせて
世界の夜明けはフクシマからはじまる
悲しみを繰り返ささない平和な幸せな地球を
創りゆくために

**Be filled with the heart of the great cosmos.
New dawn for the peace and happiness of our planet
has begun with FUKUSHIMA.
Never repeat the grief for our children.**

間もなく四年目の3.11が訪れ、そして過ぎゆくとしています。この「忘れられない日」を節目に、被災された多くの方々をはじめ、国内の、そして海外のたくさんの眼差しが、福島は今とこれからをみつめています。

千葉節子フォトグラフィーアート展【FUKUSHIMA SKY～空はいのちをつないでいる】、は、そんな福島に今なお広がる悠久のときしえの大空をとおして、日本のみならず、広く世界へ向けて、命の貴さと素晴らしさをお伝えし、もう二度と同じ悲しみを繰り返さない平和な幸せな地球を創りゆくことを目的に、3.11後、およそ三年に渡り制作を続ける写真と詩による「こころの復興」のためのコンテンポラリーアートのプロジェクトです。

作品のモチーフは、作家の住まいがある福島県白河市の大空。目の覚めるような鮮やかな美しい色彩、そして、時にユーモラスな表情を浮かべる、壮麗な、感動的な空の姿をアーティストックに表した写真に、命の貴さと素晴らしさへの限りない愛と希望と祈りを込めた詩を添えたヴィジュアルアートが、会場に展示されます。

今なお課題が山積する東日本大震災と福島第一原発事故後の日々。ときに迷い、ときに折れそうな心すらも、優しく、力強く、抱きしめてくれるかのような、誰の頭上にも広がる悠久のときしえの大空を芸術作品にすることで、一人でも多くの方々に励ましを贈らせていただきたい、との作家の強い思いにより、この度の展覧会は開催することになりました。

あらゆる差異の壁を乗り越えながら、瞬時も休むことなく未来へ向けて、悠々と自在に進みゆく生命の大宇宙である大空の姿は、しなやかに、おおらかに、自分らしく誇り高く生きることの大切さを、たゆみなく語っているような気がします。

人と人をつなぎ、命と命をつなぎゆく大空の心を味わえるこの素晴らしい機会を、是非、皆様でお楽しみいただけますよう、何卒よろしく願い申し上げます。

【 SCHEDULE 】

展覧会期間

2015年3月11日(水)～6月7日(日)
11:00～17:00(毎週火曜日休み)
入場料：無料

アートパフォーマンスステージ

ポエトリーリーディングを総合芸術に高める世界の第一人者

千葉節子

「FUKUSHIMA SKY～空はいのちをつないでいる」
トークショーと
愛と希望とやすらぎのためのポエトリーライブ
Setsuko Chiba Poetry Live and Talk Show



2015年5月31日(日) 14:00開演

出演：千葉節子

(詩人、美術家、ポエトリーリーディングアートパフォーマー)

入場料：¥2,000(予定、お茶とお菓子付)

会場

原発災害情報センター



福島県白河市白坂三輪台247 (Tel/Fax : 0248-28-1111)

JR白坂駅より徒歩7分、アウシュヴィッツ平和博物館看板左へ曲がり直進すぐ

<http://genpatusaigai.web.fc2.com>

【千葉節子プロフィール】

Setsuko Chiba Profile

詩人、美術家、ポエトリーリーディング・アートパフォーマー。

青山学院大学卒業後、毎日新聞のフリージャーナリスト等を経て、90年代半ばにアメリカはNYで詩人、アーティストとしてデビューした後、フランスはパリで活動する。生命の宇宙の愛と平和を描く審美的な詩作と、演劇的、且つ、現代アートの華麗なステージパフォーマンスで注目され、特集番組『天使・千葉節子』（パーフェクトTV）やフランスのレビュー・エ・コリジエ等国内外の多くのメディアに取り上げられる。NYのラ・ママ・ラ・ギャラリア公演やパリの日本大使館公演をはじめ、フランスのナントアートフェスティバルのインヴィテーションアーティストとして招かれる等国内外でポエトリーリーディングのアートパフォーマンスを重ね、ポエトリーリーディングを総合芸術へと高めるその第一人者として知られる。



美術家としては、インスタレーションや写真をツールにした現代アートに携わる。2011年3月11日東日本大震災と福島第一原発事故により福島県白河市の自宅が被災後、命の貴さと心の復興をテーマにしたホワイトインスタレーション、又、写真と詩によるフォトグラフィアート、『FUKUSHIMA SKY～空はいのちをつないでいる』、『Flowers in The Eternity～永遠のなかの花たち』、『Blessed and Embraced～溢れる光に包まれて』、の「FUKUSHIMA三部作」を制作。東京を中心に展覧会を行う。

一方、写真と詩のコラボレーションプロジェクト、『SETSUKO ICON / POETGRAPHOLLIA』ではモデルとしても従事。『日本カメラ』、『ドルーク』、イタリアはミラノの大手ファッション誌等に生命讃歌と平和のための長編詩、『65億のヴィジオネール』他等を掲載。東京や横浜のギャラリー等で発表を重ねる。

詩、エッセイ、コラム、美術評論等を寄稿する。品集に、CD『夢魔の庭』（Compozila /東京/ホッピー神山プロデュース）、『MANGO MAN GO』（Spalax/パリ/J-F ポヴォロス共作）等がある。

福島県白河市在住。 <http://setsuko-chiba.amsstudio.jp/>